

2016年(平成28年) 11月8日 火曜日

レアメタル資源 再生動向を講演

115人が聴講

【名古屋】レアメタル資源再生技術研究会(会長＝藤田豊久・東京大学教授)は7日、名古屋市熱田区の名古屋市工業研究所で第13回講演会を開催した。

「資源安の中でのリサイクルはどうあるべきか」非鉄金属精錬のリサイクルの現状と今後「」をテーマにした今回は、会員など115人が参加。最新の動向を解説する講演に熱心に聞き入った。

開会に先立ち藤田会長は「資源価格の下落に伴いレアメタルリサイクルの事業採算性は厳しくなっているが、原油価格の底離れなどを背景に環境に変化が見られる。一方で、最近ではあらゆる鉱石の品位低下も問題として顕在化しており、海底資源なども期待されているが時間のかかる取り組みであり、さまざまな研究の意義は大きい。今後もレアメタルの回収には総合的なリサイクルを扱う必要があり、この機に知識を補完し有意義な時間を

藤田会長



「過ごしてほしい」とあいさつした。

講演ではJX金属日立事業所且MC製造部生産管理課の亀谷敏博課長が「JX金属グループにおけるリサイクル原料処理」、三菱マテリアル金属事業カンパニー製錬部の清谷謙二

副部長が「三菱マテリアルのリサイクル事業について」、DOWAエコーシステム環境ソリューション室の川上智室長が「DOWAエコーシステムの資源リサイクル事業」、住友金属鉱山技術本部新居浜研究所の浅野聡、湿式製錬開発グループリーダーが「ハイブリッド自動車用ニッケル水素電池のリサイクル技術について」、三井金属鉱業金属事業本部金属事業部製錬部の野田眞治部長が「製錬技術を活用した

リサイクル製錬」、経済産業省中部経済産業局・資源エネルギー環境部環境・リサイクル課の浅野俊明課長が「循環型社会の構築と環境ビジネス振興の取組」と題した講演を行った。